

かざね  
四万十の風音

しんせん  
森&川だより



蔓万年草（多肉植物）

## 『滑床溪谷』山開き神事後に森林環境教育を実施

4月27日、鮮やかな新緑の中、宇和島市と松野町にまたがる愛媛森林管理署管内滑床山国有林内の国立公園「滑床溪谷」で、松野町などが主催する山開き神事があり、両市町の関係者や地元住民ら約60人が大型連休を前に入山者の安全と観光振興を祈願しました。

神事にあわせて、町内2小学校の四年生児童で作る森の国緑の少年団の16名も参加し、滑床発展の願いを込めてアマゴ稚魚を目黒川へ放流しました。

神事後には松野町から当センターが依頼を受けて、恒例の森林環境教育を「森の国緑の少年団」を対象に実施していますが、今年は松野西小学校と松野東小学校の要請で、雪輪の滝までの登山を実施することになりました。

はじめに、万年荘内で、雪輪の滝までの登山ルートと下山ルートの説明や自然休養林でもある滑床溪谷の見所や水をはぐくむ森林の大切さ、登山をする際の注意点について説明し、これから1年間、両校で6回程度の森林環境学習を行う事で調整しました。

万年荘周辺で昼食をとった後は、万年橋（標高340m）から、雪輪の滝（標高530m）を目指して往復約3km、高低差190mの登山を行いました。

晴天に恵まれたこともあり、児童達は滑床の自然に触れ、溪谷の多彩な変化にとっても感動した様子で、「メッチャ楽しい。」「四年生で総合の学習がこれから1年間できるのがとても楽しみ！」と連発していました。

そして、往路の見所の一つ、出合滑では、花崗岩の巨大な一枚岩の滑に手で触れて、滑らかな岩肌を体感しました。

また、遊歩道沿いの樹木を学習し、鳥のさえずりを聞きながら1時間10分歩くと雪輪の滝に到着しました。

雪輪の滝は、大きな一枚岩の上をまるで雪の輪のような波紋を残しながら落下する様がこの滝の由来にもなっていて、「日本の滝百選」にも選ばれてお

り、児童達は、雄大な滑床の自然を満喫していました。

その後、復路は、ネイチャーゲームのフィールドビンゴ（五感を使って自然のたからものを探すゲーム）を行い、鹿の角つのや、エメラルドグリーン色の枯れ枝などの珍しい物を発見し、「ヤッター宝物にする。」と言ってました。また、春の柔らかな日差しの中、木漏れ日キヤッチ、自然観察をしながら、国有林林道を1時間で無事下山しました。



滑床山開き神事で拝礼する所長



「目黒川にアマゴの放流」



万年荘内で事前説明の様子



みすじ 三筋の滝付近を登山の様子



で あい なめ か こう がん 出合滑の巨大な花崗岩を体感



なめ 滑を体感



日本の滝百選、ゆきわ雪輪の滝を望む



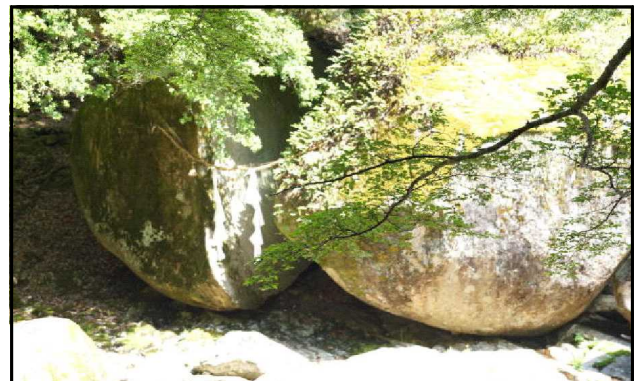
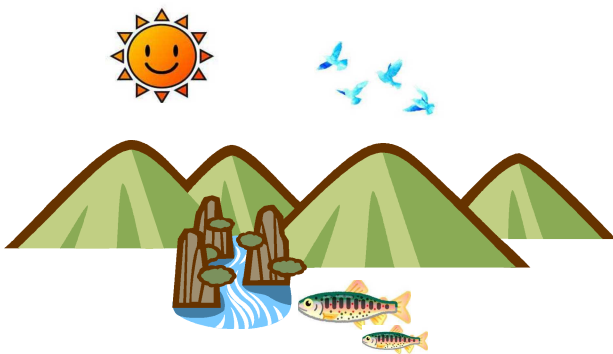
ゆきわ雪輪の滝でハイポーズ



木漏れ日キャッチと樹木学習の様子



フィールドビンゴをしながら下山中



きめつ やいは鬼滅の刃シーンを連想させる鳥居岩

## 西土佐の魅力探求 中学生「堂ヶ森登山」

四万十市立西土佐中学校では、令和3年度から、「地域の自然や文化、歴史に興味関心を持つための総合的な学習」の最初の課題探求の場として、自然や歴史のある堂ヶ森に一年生徒17名が登山することになり、今年度も当センターが案内役として同行し森林環境教育を実施してもらいたいとの要請で、5月10日に実施しました。

当日は良い晴天に恵まれ、開会の挨拶後、準備運動をしてから登山道沿いのイスノキやユズリハ、マツなどの樹木を観察しながら、遠くに見える鬼ヶ城山系の山脈や西土佐で一番高い山「横の森（標高1,200m）」を眺めたり、往還道や前地蔵など歴史の学習や山頂に上がるにつれてアカガシ、ヤブツバキ等の照葉樹林（常緑広葉樹）からモミ、ツガ等の針葉樹林、イヌシデ、ウリハダカエデ等の落葉広葉樹林が混成する四万十川流域の貴重な天然林への移り変わりをつぶさに観察しつつ、木々の新緑や鳥のさえずりを聴き、豊かな郷土の自然を楽しみながら、約1時間40分で堂ヶ森山頂（857m）に到着しました。

- ※往還道=土佐中村を中心に堂ヶ森山頂を通って、東西南北に行き来する道路を開設、中村～蕨岡～竹屋敷～十和を結ぶ昔の人馬道です。
- ※前地蔵=堂ヶ森を中心に東西南北に4体の前地蔵（藤ノ川、大井川、野川、竹屋敷）が祀られています。

山頂では「堂ヶ森の由来」や「女相撲」などの伝統行事の説明を聞き、山頂の堂ヶ森風景林の散策や眼下に蛇行する四万十川や四万十市街を眺望したりしました。

下山途中には、天然ヒノキの群落（西土佐ヒノキ仙人の森として保存）や森の巨人たち百選にも選ばれている「四万十の檜仙人」の大木を目の当たりにしました。

生徒達は、江戸時代から約3百年という長い年月を経て現存する天然ヒノキの雄大に、『まこと、地域の宝に「木がでかい！」』と驚いていました。

約一時間で下山し、西土佐郷土の森駐車場で昼食をとった後、「ニホンジカの食害や獣害対策」などの説明や、次に、職員がドローンを操縦して見せると、「モニター画像がメッチャきれい。」など、興味深そうに眺めていました。

なお、バスで帰る途中、杖ヶ尾林道沿いの森林軌道の遺構を見学させることもできました。

終わりに、生徒の代表から、「今回の山登りがとても良い経験になりました。どうもありがとうございました。」とお礼の挨拶があり、無事に登山を終了することができました。

当センターとしても学校の要請に応えることができた良い一日でした。



西土佐郷土の宝、堂ヶ森国有林



堂ヶ森山頂の地蔵堂を背景に集合写真



堂ヶ森風景林での一コマ



堂ヶ森風景林での一コマ



ひのきせん にん  
四万十の檜仙人にタッチ



ドローン操縦を見る様子



## 滑床の豊かな自然、素晴らしさを体感 (松野東小学校学校行事「森とも登山」)

5月25日、愛媛県松野町立松野東小学校全校児童30名が滑床溪谷（国有林で足摺宇和海国立公園内）で、隔年実施の学校行事「森とも登山」を、今回も学校より案内と森林環境教育の要請を受け実施しました。

当日は、天候にも恵まれ、万年橋（標高340m）から、雪輪の滝（標高530m）を目指して往復約3km、高低差190mの登山を行いました。

往路は、溪谷右岸の遊歩道沿いの樹木などを学習しながら清流と滑らかな岩肌がつくり出す多彩な変化や森林の緑、自然の美しさ雄大さに触れました。

見所の一つ出合滑では、花崗岩の一枚岩に直接手で触って、滑（平らでなめらかな岩の上を少量の水が流れ、ぬるぬるしていること）をじかに体感してもらいました。また、水たまりには、沢山のアカハライモリが生息していて、捕まえて手のひらにのせている児童もいて、滑床の美しい自然に触れたことで、みんな少し興奮気味の様子でした。

そして、約1時間で、雪輪の滝（日本の滝百選にも選ばれている滝）に到着し、滑らかな大きな岩肌を流れる水が、まるで雪の輪のような波紋を残しながら落下する様子を目の当たりにしました。

復路は、左岸の滑床林道を下りながら、ネイチャーゲームの「フィールドビンゴ（五感を使って自然の宝物を探すビンゴゲーム）」などを行い、初夏の森林から聞こえてくる鳥のさえずりや緑のシャワーを浴びながら万年橋まで約1時間で無事に帰ってきました。

なお、午前中は地元のケーブルテレビ『ユーキャット』が取材に来て、登山や活動の様子を撮影され、後日南予地域で放映されたそうです。

午後からは、滑床アウトドアセンター万年荘内や万年荘前広場に分散して、ヒノキムク板等を使用した、愛媛県のゆるキャラ「みきゃん」と「ダークみきゃん」等をモチーフにした置物や壁掛け作りをしました。

終わりに、児童より、「いろいろな体験をしてとっても楽しかったです。滑床の美しい自然をこれからも大切にしていきたい。」とお礼の挨拶がありました。

当センターとしても、今回の体験が、地元の自然のすばらしさに気づき、自然や森林への興味や理解につながっていくものと考えています。



滑床溪谷駐車場で開会式の様子



出合滑での一コマ



アカハライモリが沢山生息



雪輪の滝で集合写真



滑床林道でのシダの葉飛ばしの様子



木工クラフトキット



万年荘内で木工クラフトの様子



万年荘前で木工クラフトの様子



置物タイプ完成したよ



壁掛けタイプ完成したよ



万年橋で集合写真



置物タイプ完成したよ



### 児童たちの感想（抜粋）

- 木や森についていろいろなことを知ることができた。
- 木とかコケとかを触って、新鮮な感じがしました。
- 登山などいろいろな経験をすることができました。
- 登山して、川や生き物の様子を見ることができた。
- 山を登るのは大変だったけど、水分をとってがんばれた。
- 森のことがくわしくなってきた。楽しかった。
- ビンゴでは、あとチョウチョを見つけたらオールビンゴだった。
- 山に登ったのが、1番楽しかったです。
- 木工クラフトが楽しかったです。いっぱいかざりを付けてかわいく作れました。
- アカハライモリがいました。ぷにぷにでした。
- 雪輪の滝がとてもきれいでした。
- 滝に行く途中、丸い石が2つに分かれていて、すごかったです。
- 帰り道のビンゴがとても楽しかったです。
- さわがにを2匹つかまえて、手のひらにのせたら、かまれました。

## 固有種トキワバイカツツジの開花状況調査を実施 (局計画課、四万十川森林ふれあい推進センター)

四万十川森林ふれあい推進センターでは、愛媛県南部地域にのみ自生する固有種「トキワバイカツツジ」の獣害対策及び開花状況調査を毎年度行っています。

今年度も、四国森林管理局計画課と共同で4月19日に調査を行いました。

調査は、あらかじめ定めた標準木の開花数・生長量を記録するもので、豊作であった2年前に比べ花の数は少なかったものの、例年どおりの咲き具合で、蕾のある木や花が散り際の木もありましたが、ほぼ満開に近いタイミングでの調査となりました。

当日は雨予報にも関わらず雨に遭遇せずに調査することができました。木々の緑のシャワーと花のコントラストが美しく、間伐後の陽光のよく受ける箇所は蕾をつける木も少しずつ広がりを見せ、山を染める淡い紫色やピンク色の花は年々鮮やかになっている様に見えます。

また、この周辺はニホンジカによる食害が続いており、当センターでは、平成24年度からシカ剥皮被害防止ネットでトキワバイカツツジを単木保護するとともに、定期的な巡視も行っています。令和4年度には、シカ剥皮被害防止ネット（単木保護用ラス巻き）から出た枝にシカの食害痕が見つかりましたが、その後は直接的な被害もなく、胸をなで下ろしている状況です。

今後とも、関係者や愛媛森林管理署の協力も得ながら、地域の宝、希少種でもあるトキワバイカツツジの生息環境を維持・保全できるよう継続的に取り組んでいきたいと考えています。



トキワバイカツツジの可憐な花



木々の緑とのコントラストが美しい



調査の様子



調査の様子



調査の様子



調査の様子

# 八面山登山道の維持管理と機会を捉えて登山者との対話

当センターの森林体験学習の主要なフィールドは、愛媛県側の登山口から黒尊・滑床エリアの八面山（標高1,165m）や大久保山（標高1,158m）を經由しブナ林に至る1.5kmを往復するコースで、宇和島市街地が一望でき、遠くは石鎚山、四国カルストなどの山々も望め、気象条件が揃えば九州までも一望できます。

この体験フィールド内の、滑床山国有林2067林班（愛媛森林管理署管内）は、ブナ、ミズメ、カエデ類からなる約2百年の天然生林で、足摺宇和海国立公園（滑床地区）第二種特別地域に指定されています。

毎年度数件ですが、学校からの要請を受けて児童生徒を八面山や大久保山、ブナ林に案内し、樹木学習や自然観察など森林体験学習を行っており、また、当センターとしてもミヤコザサ等の植生保護のため設置しているシカ防護ネット柵（令和4年度末総延長5,620m）の点検・整備を定期的に行っています。また、四季を通じて県内外から登山やトレッキング等で訪れる方々などから、貴重な情報収集源として登山者との対話を重要視しています。

また、国有林の登山道の管理として歩行の妨げとなっている倒木等の処理や草刈を年間数回実施しています。

今年もこの夏、草刈等を予定しており、歩行時の転倒や歩道の踏み外しを防ぎ、歩きやすい登山道の維持管理に努めて参ります。



八面山散策マップ

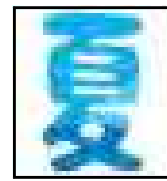


滑床山ブナ林にて登山者との対話

# 当センターでは森林環境教育について ご相談を受け付けています。



当センターでは、国有林のフィールド（国民の森林）を使った森林環境教育（森林教室・木工教室・林業体験・森林散策等）や小中学校や高校、放課後児童クラブなどへの出前授業、学校林での活動など、教育関係者、NPOの団体の方々などからの様々な相談を受け付けており、できる限りの対応をいたします。お気軽に当センター（下記）までご相談下さい。



## 当センター（下記）

農林水産省 四国森林管理局  
四万十川森林ふれあい推進センター  
高知県四万十市西土佐西ヶ方586番地2  
電話0880-31-6030

